

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)橋本電機工業本社屋	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県高浜市新田町五丁目1-15.1-16.1-17	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	126人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,200時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年11月 予定	評価の実施日	2023年12月11日
敷地面積	3,800㎡	作成者	加藤真
建築面積	1,483㎡	確認日	2023年12月11日
延床面積	2,642㎡	確認者	加藤知徳



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	77%
③上記+②以外の	77%
④上記+	77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

音環境	3.2
温熱環境	2.2
光・視環境	3.4
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

機能性	3.2
耐用性	3.0
対応性	3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	2.0

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.9

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.2
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	3.4
汚染物質回避	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

地球温暖化への配慮	3.9
地域環境への配慮	3.3
周辺環境への配慮	3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>21.3 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	21.3 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	21.3 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)橋本電機工業本社屋

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.2	0.15	-	-	-	-	-	3.2
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
1.2.2 界壁遮音性能		-	3.0	0.60	-	-	-	-	-	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音	床、天井の二面に吸音材を使用	-	4.0	0.20	-	-	-	-	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御		0.3	2.2	0.35	-	-	-	-	-	2.2
2.1.1 室温		0.5	3.4	0.50	-	-	-	-	-	
2.1.2 外皮性能	断熱性能の高い外皮材料を使用	3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	-	
2.1.3 ゾーン別制御性		3.0	4.8	0.25	-	-	-	-	-	
2.1.4 3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	1.0	0.30	-	-	-	-	-	
3 光・視環境										
3.1 屋光利用		0.2	3.4	0.25	-	-	-	-	-	3.4
3.1.1 屋光率		0.3	1.8	0.30	-	-	-	-	-	
3.1.2 方位別開口		3.0	1.0	0.60	-	-	-	-	-	
3.1.3 屋光利用設備		3.0	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策	ブラインド・庇による屋光制御	0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-	
3.2.1 屋光制御		5.0	4.0	1.00	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	3.0	0.15	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御	1作業単位以下で制御、端末スイッチで調整可能	3.0	5.0	0.25	-	-	-	-	-	
4 空気質環境										
4.1 発生源対策		0.2	3.7	0.25	-	-	-	-	-	3.7
4.1.1 化学汚染物質	天井裏を含めほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用	0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-	
4.1.2 1 化学汚染物質		3.0	4.0	1.00	-	-	-	-	-	
4.2 換気		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	
4.2.1 換気量	建築基準法を満たす換気量の1.2倍以上を確保	3.0	4.0	0.33	-	-	-	-	-	
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上	3.0	4.0	0.33	-	-	-	-	-	
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	1.0	0.33	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		0.2	4.0	0.20	-	-	-	-	-	
4.3.1 CO ₂ の監視		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
4.3.2 喫煙の制御	全館禁煙としている	3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.2	0.40	-	-	-	-	-	3.2
1.1.1 広さ・収納性		0.4	2.6	0.40	-	-	-	-	-	
1.1.2 1 広さ・収納性		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
1.1.3 2 高度情報通信設備対応		3.0	2.0	0.33	-	-	-	-	-	
1.1.4 3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		0.3	3.6	0.30	-	-	-	-	-	
1.2.1 広さ感・景観 (天井高)	天井高:2.9m以上	3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-	
1.2.2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
1.2.3 内装計画		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理		0.3	3.5	0.30	-	-	-	-	-	
1.3.1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した設計を行っている	3.0	4.0	0.50	-	-	-	-	-	
1.3.2 維持管理用機能の確保		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.0	0.31	-	-	-	-	-	3.0
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	
2.1.2 1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	
2.1.3 2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.1	0.33	-	-	-	-	-	
2.2.1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	2.0	0.23	-	-	-	-	-	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装仕上げ材を使用	-	4.0	0.09	-	-	-	-	-	
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	耐用年数の長い配管材を使用	-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性		0.1	3.0	0.19	-	-	-	-	-	
2.4.1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.4.2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.4.3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.4.4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.4.5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性					0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり					0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				階高を確保することで将来の用途変更へ考慮	-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ				空間の自由さを確保し将来の用途変更へ考慮	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.7	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.68	3.0	4.2	0.30	-	-	-	4.2
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				自動水栓に加えて節水型便器を採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.4	0.63	-	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	LG5工法、OAフロアの採用	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				GWP値の低い断熱材の採用	-	4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率77%	-	3.9	0.33	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮					0.3	3.3	0.33	-	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止				燃焼機器の設置は無い	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.5	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	-	5.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:21.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)橋本電機工業本社屋

計画上の配慮事項	
総合	・高効率な設備機器の導入、節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。
Q1 室内環境	・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気環境の確保を図っている。
Q2 サービス性能	・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。
Q3 室外環境(敷地内)	・敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮している。
LR1 エネルギー	・全面的なLED照明の導入など、高効率な設備システムを導入することで省エネルギー化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	・躯体と仕上材の分離が容易であり、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。
LR3 敷地外環境	・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。
その他	-